



鈴木ひろむ 後援会だより

平成 23 年秋号 Vol.7

9月定例会において一般質問を行いました。

質問 1. 中心市街地の活性化計画について

目的は？

市では平成 14 年度～平成 23 年度を計画期間として「富士宮市中心市街地活性化基本計画」を定めています。その目的は「門前町の歴史、文化を維持継承するとともに、市の顔としてふさわしい風格のある都市環境を有し、市民が集い、交流し、楽しい時間を過ごすことができる中心市街地を形成するため」とあります。

経緯経過は？

富士宮市の駅前前の街路は驚くほど立派になりました。旧長崎屋跡地には 13 階建てのマンションが建ち、1、2 階は公民館と交流センターが入ることが決まりました。浅間大社のせせらぎ駐車場もできています。身延線の高架事業も進んでいます。あちこち整備されていますが、残念なことにひと通りが少なく、市民が集い、交流していないのです。皮肉な言い方をすれば市民が楽しい時間を過ごす場所はジャスコになってしまったようです。その意味で中心市街地活性化基本計画は既に達成されたと言えなくもありません。



長崎屋跡地に建設予定のマンション
1.2 階は公民館と交流センター

今、求められることは？

今求められる中心市街地活性化の目的は何と言っても観光客の市内への吸引力です。新東名がいよいよ開通し、芝川地区が西の玄関口となります。その時に富士山本宮浅間大社を中心とした門前町に魅力があれば新清水インターを利用する車は多いはずで、その魅力がなければ新清水インターで降りて 52 号線を北上して山梨県へ行ってしまいます。やきそば話題でお宮横丁には人がいますが他の場所にはいません。浅間大社観光客も平成 13 年度が 132 万人でこの間上下はありますが平成 22 年度も 138 万人で、そんなに変わらないのです。門前町というが門前町のシャッターが下りたりして、なんともさびしい。お客さんがせっかく訪れてくれても行く所がない、寄る店がないのではもう来てくれないでしょう。

そこで質問

「富士山本宮浅間大社」の門前町の元気な姿は来宮者への最大のもてなしと考えるがいかがか？
環境経済部長 富士宮やきそばが全国的に有名になったことで、以前に比べ、浅間大社周辺には多くの観光客が訪れている。市では中心市街地活性化基本計画で門前町と湧水を歩いてめぐる町なか観光という基本方針のもと、浅間大社大鳥居の建設、町なか散策マップの作成、町なかアートギャラリーなどさまざまな事業を実施してきたところ。

空き店舗対策はどうか

環境経済部長 空き店舗を有効に利用させてくださいとお願いしても土地、建物をお貸するほうがなかなかお貸しいただけないということもあって有効活用が図れていないというのが実情。

質問 2. 信長公黄葉まつりについて

信長公黄葉まつりを題材にして観光施策に他市との連携が図れないか質問

環境経済部長 西山本門寺の信長公の首塚は旧芝川町から引き継いだ観光資源。浅間大社西側には富士見石がある。これは信長公が甲斐武田氏を討伐後浅間大社に寄り、源頼朝の富士の巻き狩りの足跡を見学した後、雄大な富士を初めて見たと言われているところ。信長が宿泊した場所は御殿町と呼ばれ、いまでも親しまれている地名。

夫婦都市の近江八幡市も昨年安土城のあった安土町と合併し、信長公を通じて夫婦都市の絆が一層深まった。

全国10市町で構成されている信長サミットという連絡会がある。今後この信長サミットへの参加を前向きに検討し、相互の観光パンフレットの掲載、バスツアーの

企画など連絡会関係市長と協議することを検討していきたい。



その後須藤市長が「信長サミットに加えてもらい、西山本門寺でサミットを行いたい」と表明しました。また議会で近江八幡市を訪れた際、近江八幡市長も「是非一緒にやりましょう」と言ってくれました。信長サミットの10市とは、山形県天童市、群馬県甘楽町、福井県越前町、岐阜県岐阜市、大垣市、安八町、愛知県小牧市、清須市、滋賀県高島市、安土町（現・近江八幡市）です。

質問 3. 公共施設の長寿命化修繕計画について

公共施設の更なる整備と維持管理、修繕等において予防的措置によりコスト縮減、事業費の平準化が必要と考えるがいかがかと質問

昭和40年代ころから作られた施設や橋が大分老朽化してきています。行き当たりばったりの対処していたのでは財政が安定しませんので、上記の質問をしました。

橋梁、衛生プラント、火葬場、焼却センターなどは長寿命化計画を策定する準備をしているということですが、事態はそれだけでは済みません。すべての公共施設の修繕費、建て替え費、維持管理費を計算し、今後20年か

ら50年の中でどうその費用を配分するか計画が出来る前に新たな公共投資はやるべきでない、と強く市長に要求しました。

市長は「一つ一つ精査してできるだけお金をかけないで、かつ新しいことができるようにしていきたい。」と答えましたが、このことをしっかり認識してもらう必要があると思います。

台風15号稲子を直撃

9月21日、9月定例会の一般質問1日目の午後3時頃台風15号が芝川地区を通過しました。特に稲子が大きな被害を受けました。被害に会われた皆さまには心よりお見舞いを申し上げます。

議会中の災害だったため会議最終日には災害復旧費の補正予算約6億7千万が上程され、その場で可決されました。国の災害復旧費の認定はこれからですが、市の災害復旧費が早く決まったため復旧工事に速やかに取り組むことができます。

速、補正予算が可決された背景には、合併効果により増額した約32億の財政調整基金の活用があります。21年度末は約13億円であったものを、合併による地方交付税の増額などの要因により1年間に更に約19億円積み立てることができていました。この財源があったからこそ速やかな財政対応ができたといえます。

完全復旧には時間がかかりますが、少しでも以前より安心できる復旧がなされるよう見守りたいと思います。